

科目名	中級日本語A（文法，聴解・会話，読解・作文） Intermediate Japanese A	新座
担当者	春学期：金庭 久美子（Kaneniwa, Kumiko）	
開講学期	春学期	単位数 1 単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活のみならず、大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型，読解，語彙，作文，聴解会話について、広く扱う。中級日本語Aでは、読解素材を軸とし、ディスカッションや発表，作文などを行う。テーマは主に、「観光」・「祭り」・「江戸」を扱う。また、学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業とWeb上の教材を利用した学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では、ディスカッションやグループワーク、Web上では個々の能力別の文法・文型，および語彙学習を行う。また、作文や読解などの宿題も課すため、参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要、「観光地」について考える。
- 2-5. 「観光地」に関する読解教材を宿題として読む、授業内では内容理解の確認とディスカッションを行う。
- 6-9. 「祭り」に関する読解教材を宿題として読む、授業内では内容理解の確認と発表を行う。
- 10-12. 「江戸」に関する読解教材を宿題として読む、授業内では内容理解の確認とグループディスカッションとグループ発表を行う。
13. 期末テスト(文法，語彙)
14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度25%，Web教材学習25%，作文等の課題25%，期末テスト(文法・語彙)および最終プレゼンテーション25%

テキスト

第2～5回は、観光地に関する時事ニュースをもとにしたオリジナル読解教材を使用する。教材は、履修者の読解レベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し、学生は自分のレベルに合った教材を使用する。第6～9回は、日本の祭りを説明した生教材を使用する。各自の興味がある祭りの読解教材を1人1つ選択する。第10～12回は江戸の文化について説明した生教材を小グループで読む。作文教材は、履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

科目名	中級日本語B（文法，聴解・会話，読解・作文） Intermediate Japanese B	新座
担当者	春学期：谷 啓子（Tani, Keiko）	
開講学期	春学期	単位数 1 単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を，日常生活のみならず，大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型，読解，語彙，作文，聴解会話について，広く扱う。中級日本語B では，視聴覚素材を軸とし，ディスカッションや発表，作文などを行う。テーマは主に「若者の消費」・「日本人の未婚化」・「男性の育児」を扱う。また，学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業とWeb上の教材を利用した学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では，ディスカッションやグループワーク，Web上では個々の能力別の文法・文型，および語彙学習を行う。また，作文などの宿題も課すため，参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要

2-4. 授業内に「若者の消費」に関する視聴覚教材を視聴する，内容理解の確認，ディスカッションを行う。

5-7. 授業内に「日本人の未婚化」に関する視聴覚教材を視聴する，内容理解の確認，ディスカッションを行う。

8-10. 授業内に「男性の育児」に関する視聴覚教材を視聴する，内容理解の確認，ディスカッションを行う。

11-12. 発表準備

13. 期末テスト(文法，語彙)

14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度25%，Web教材学習25%，作文等の課題25%，期末テスト(文法・語彙)および最終プレゼンテーション25%

テキスト

第2～4回は「若者の消費」に関する視聴覚教材，第5～7回は「日本人の未婚化」に関する視聴覚教材，第8～10回は「男性の育児」に関する視聴覚教材を使用する。内容理解のための教材は，履修者のレベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し，学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は，履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については，毎回の授業で指示する。

科目名	中級日本語C (文法, 聴解・会話, 読解・作文) Intermediate Japanese C	新座
担当者	秋学期: 金庭 久美子 (Kaneniwa, Kumiko)	
開講学期	秋学期	単位数 1 単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活のみならず、大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型、読解、語彙、作文、聴解会話について、広く扱う。中級日本語Cでは、読解素材を軸とし、ディスカッションや発表、作文などを行う。テーマは「若者」・「女性」を扱う。そのほかのテーマを扱う可能性もある。また、学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業とWeb上の教材を利用した学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では、ディスカッションやグループワーク、Web上では個々の能力別の文法・文型、および語彙学習を行う。また、作文や読解などの宿題も課すため、参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要, ステレオタイプについて考える。
- 2-7. 「日本の若者」に関する読解教材を宿題として読む, 授業内では内容理解の確認, ディスカッション, グループ発表を行う。
- 8-12. 「女性」に関する読解教材を宿題として読む, 授業内では内容理解の確認, ディスカッション, グループ発表を行う。
13. 期末テスト(文法, 語彙)
14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度25%, Web教材学習25%, 作文等の課題25%, 期末テスト(文法・語彙)および最終プレゼンテーション25%

テキスト

第2~7回は、若者に関する読解教材, 第8~12回は女性に関する読解教材を使用。教材は、履修者の読解レベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し、学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は、履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。

履修者の年次や既習内容によって進度や内容を変更する場合がある。

科目名	中級日本語D (文法, 聴解・会話, 読解・作文) Intermediate Japanese D		新座
担当者	秋学期: 谷 啓子 (Tani, Keiko)		
開講学期	秋学期	単位数	1 単位

授業の目標

J4からJ6の学生を対象とする。学生が知識として持っている文型や語彙を、日常生活のみならず、大学での学習や研究活動の様々な場面で活用できるレベルに高めることを目指す。

授業の内容

文法・文型、読解、語彙、作文、聴解会話について、広く扱う。中級日本語Dでは、視聴覚素材を軸とし、ディスカッションや発表、作文などを行う。テーマは主に「日本の四季」・「日本の伝統行事」を扱う。また、学生個々のレベルに応じた文型や語彙についても扱う。

授業計画

教室授業とWeb上の教材を利用した学習を効果的に組み合わせながら授業を進める。教室授業では、ディスカッションやグループワーク、Web上では個々の能力別の文法・文型、および語彙学習を行う。また、作文などの宿題も課すため、参加者は授業時間外にも与えられた課題を行わなければならない。

1. 授業概要

2-4. 授業内に「日本の冬の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。

5-6. 授業内に「日本の春の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。

7-8. 授業内に「日本の夏の伝統行事」に関する

視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。

9-11. 授業内に「日本の秋の伝統行事」に関する視聴覚教材を視聴する、内容理解の確認、ディスカッションを行う。

12-13. 発表準備

13. 期末テスト(文法、語彙)

14. 最終プレゼンテーション

成績評価方法・基準

出席およびクラスへの参加度25%、Web教材学習25%、作文等の課題25%、期末テスト(文法・語彙)および最終プレゼンテーション25%

テキスト

第2～4回は「日本の冬の伝統行事」に関する視聴覚教材、第5～6回は「日本の春の伝統行事」に関する視聴覚教材、第7～8回は「日本の夏の伝統行事」に関する視聴覚教材、第9～11回は「日本の秋の伝統行事」に関する視聴覚教材、使用する。内容理解のための教材は、履修者のレベル(J4-6)に対応したものを用意・配布し、学生は自分のレベルに合った教材を使用する。作文教材は、履修者の作文レベル(J4-6)に対応したものを使用する。

参考文献

授業で適宜紹介する。

準備学習・その他(HPなど)

必要な準備学習については、毎回の授業で指示する。